



ハーモニー



新型コロナ感染症対策に関するマスク着用について



2月9日(木)の新聞に下記の記事が載っていました。

今春実施される小中高校などの卒業式について、文部科学省はマスクを外しての実施を可能とする事を決め、週内にも全国の教育委員会などに通知する方針を固めた。政府関係者への取材で8日、分かった。新型コロナウイルスの「5類」移行に伴うマスクの着用ルール緩和前でも、卒業式はマスクなしを容認する。政府は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けを5月8日に5類に引き下げる。専門家組織などの意見を踏まえ、本人に症状がある場合や医療機関を訪問する際など、引き続きマスク着用が効果的な場面を今月10日にも発表する方向で検討している。

文科省は、政府全体の方針に基づき、卒業生や教職員らがマスクを着用しなくてもよい条件などを示し、会場の換気といった対策を求める。校歌斉唱時や参列する保護者のマスクの取り扱いも早急に整理して提示する。一方、高齢者や重症化リスクの高い家族と同居する児童生徒もおり、マスクを外す事は強制せず、本人の意向に配慮する。

厚生労働省に助言する専門家組織の有志らは8日の会合で、マスク未着用での式典参加を容認する見解を提示。流行が落ち着いた地域では「参列者がマスクを着用しなくてもよい事も考慮され得る」とし、参列者同士の距離を空ける事や十分な換気の確保、近くで会話する機会を慎むといった対策を要請している。

卒業式のマスク着用を巡る厚生労働省専門家組織有志の見解

- ① マスク着用には感染リスクを減らす効果
- ② 一生に一度の卒業式ではマスクを外したいという気持ちには理解
- ③ 流行が落ち着いた地域ではマスクなしも考慮され得る。その場合
 - ・体調に不安がある者は参加を控える
 - ・距離を空ける
 - ・十分な換気を確認
 - ・近くでの会話を慎む
 - ・本人の着用する、しないの意思を尊重する

3年生の保護者の皆様には2月3日配付の「卒業証書授与式の開催について(ご案内)」のプリントで感染症拡大防止やマスク着用等についてのお願いをいたしておりますが、今後の指針や本校会場面積等により対策が変更になった場合は後日お知らせいたします。

卒業生の入場から退場までの場面で、マスク着脱をどうするかを考え、卒業生の心に残る式典になるよう、在校生、教職員で準備を進めていきます。

1. 2年生にも知ってほしい

今週3年生は学年末テストを行いました。引き続き、来週行われる私立高校の一般入試に挑戦する生徒もいます。今回のテストに向けて頑張った成果を今後の入試にも発揮してください。

ところで今年の3年生の受験先は40校近くあります。受験日は同じではありませんので決定日の差が出てきます。現在、49人の生徒の進路先が決定(内定)しています。おめでとございます。決定した人はこれからの人のために心配りをしています。高校等から通知が届き、3年部の先生と校長室で開封を行います。合否の判定が分かったとき、3年部の先生が嬉しさや悲しさで涙される姿が印象に残っています。生徒の皆さんと一緒に先生方も頑張られています。もちろんご家族の頑張りもあります。これから挑戦する生徒の皆さんが歓喜の合格につながるよう、引き続き、学習と心身の健康が維持出来るように感染症拡大防止対策の両方に留意しながら指導支援を行います。

1. 2年生も再来週の学年末テストに向けて頑張ってください。

「小さな親切」運動

先日、入賞作品集が学校に届きました。今回の特別テーマは「思いやりは心のワクチン」でした。全国応募総数33857の作品から熊本県内からは6編の作品が全国入賞となっています。今回は熊本県中学校の部優秀賞の作文を紹介します。

「恩送り」

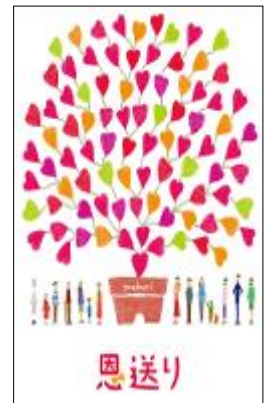
中学1年生

みなさんは、「恩送り」という言葉を知っていますか。僕がこの言葉を知ったのは、つい最近のことです。

母と一緒に買い物でスーパーマーケットに行った時のことです。その日は、レジが混んでいて、やっと自分たちの順番がきたと思ったら、母が後ろの高齢の女性に順番をゆずってしまいました。僕は、「早く帰りたいのに何でゆずってしまったんだろう」と少しイライラしました。帰り道、「何であるとき、順番をゆずってあげたの?」と聞きました。すると、母が「恩送りって知ってる?」と聞いてきました。僕は、「なんだろうその言葉。恩返しと同じような意味かな」と思いました。すると、母はこう教えてくれました。「恩送りはね、恩返しとは違って誰かから受けた恩をその人に返すのではなく、別の人に送るという意味だよ。」

その当時、母は出産のために、北九州に帰省していました。そのとき、ある女性から同じようにレジの順番をゆずってもらったことがあるそうです。そのときは、おなかの中に双子の僕たちがいてきつかったらしく、涙が出るほど感謝したことを、母は今でも覚えているのです。その人に直接恩返しをすることは出来ませんが、他の人になら恩送りが出来ると思い、今でもそれを母は実行しているのです。その話を聞き、母が急いでいるのに順番をゆずってあげた理由が分かりました。

この話を聞いて以来、僕はこの「恩送り」という言葉がずっと心の中に残っています。今までに僕もたくさんの人たちに助けてもらいました。なので、この話を聞いてお世話になった人たちの顔がうかびました。例えば、熊本地震でお世話になった方々や小学校に入学するときに助けてくれた方々などです。僕には大したことは出来ませんが、まずは身近な人に「恩送り」をしようと強く思いました。



「恩返し」や「恩送り」は素敵な考え方だと思います。「恩返し」はよく聞く言葉ですが、「恩送り」という言葉を聞いた人は少ないかもしれません。

お母さんが自分の子どもに日常生活の中で伝えられている事に感動しました。

私も母からこの言葉を教えられた記憶があります。この作文を読んで昔のことを思い出しました。

人の素晴らしい行動や素晴らしい言葉を伝えていきたいです。

